

みんなで遊ぼう！
パペットランド③

人形を持って演じよう

お話の世界で人形を持って演じることは自分を表現する機会となります。人は誰も自分が思ったこと、考えたことを誰かに伝えて理解されたい、心を分かち合いたいと願っています。この経験を通して、自分の存在が認められると、自分を表現することの楽しさや喜びを感じることができ、心の柔軟な子どものうちに、表現する機会や表現力をつける活動をもつことが必要です。

■人形を使った参加劇『おむすびころりん』

〈参加劇〉とは、役者が台本にそって劇を進めていき、次第に観客の子どもたちを劇の中に呼び込み、自発的に劇に参加できるようにするものです。

子どもたちは劇の進行の中で、観劇するだけでなく、時には役者になったり、動物や植物になったり、また観客に戻ったりしながら参加します。親しみのあるお話を〈参加劇〉にアレンジしてください。

★は子どもの参加の部分です

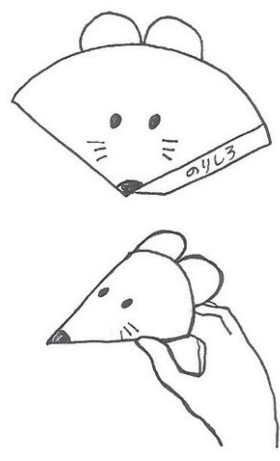
①おむすび弁当をみんなで作ろう

- ★お弁当箱の手遊びに参加
- 「♪これくらい、おべんと箱に
～スジの通ったフーキ」



②おむすびが穴の中に

- お爺さんがいただきますと頬張ろうとした時、おむすびが穴の中に
- ★ネズミの人形を操作しながら「おむすびころりんスットントン、もひとつおまけにスットントン」
- ※残りのおむすびも転がってきて繰り返します。お爺さんも穴の中に入ってみると…
- ★ネズミの人形を操作しながら「お爺さんころりんスットントン、もひとつおまけにスットントン」



<応用>

ここでは紙コップ人形を使っていますが、紙を円すいに丸めて簡単に人形を作ることもできます。対象年齢やプログラム時間に合わせて選びましょう。

お話の台本は、どの場面子どもたちが参加しやすいかを考えて作りましょう。例えば、『さんびきのこぶた』では家を建てる場面で、わらや木の材料を運んだり、歌いながら家を建てました。『こぶとりじいさん』では鬼たちの宴会の場面で踊ったりご飯を食べたりしました。



③穴の中はネズミの国。

- 「おじいさんありがとう」とおむすびのお礼に餅つき大会が始まりました。
- ★2人1組になって、人形を持たない方の手で臼を作る。
- かけ声は「ペッタンコ、ペッタンコ、
ペッタンペッタン、ペッタンコ」

④お土産のうちでの小槌

- ネズミからうちでの小槌をもらったお爺さんは、お婆さんと一緒にうちでの小槌を振って、願い事を唱えます。
- ★願い事の例：「うちでの小槌、花よ咲け」（子どもたちの手で花を作る）
- ★願い事の例：「うちでの小槌、鳥よ歌え」（子どもたちが鳥の鳴き真似をする）

⑤隣の悪いお爺さんも

同じようにおむすびを持って山へでかけ、穴の中に入っていきます。(②～⑤の繰り返し)

⑥お宝を手に入れようと、お爺さんはネコの鳴きまねをします。

- ★ネズミの人形を隠す。

⑦このままだとネズミの国を荒らされてしまうので

- ★子どもたちは「フツ」と息を吹きかけ明りを消す。真っ暗な穴の中に取り残されたお爺さんはモグラになってしまったとさ。



■配役を決めて人形劇を演じよう

幼児が取り組みやすい参加劇から発展させて、小学生以上が劇団の一員になって演じる人形劇の紹介です。一人ひとりが役を演じることが、演じたい、人形劇を見る人たちに喜んで欲しいなどの様々な「やりたい」気持ちや変身願望を満たしてくれます。グループを作って劇団を結成し、力を合わせて人形劇を上演するといったプロセスを通してコミュニケーションをはかったり、グループ意識を高めたりすることを大事にします。



<台本について>

童話や昔話は、子どもたちが話の内容を知っているもので、セリフや人形の動かし方もイメージしやすくなります。子どもが台本作りから参加する場合も、これらを土台にすると取り組みやすいです。事前に大人が創作する場合は、セリフや人形の動きに繰り返しがあるように作っておくとよいでしょう。

①自己紹介

初めて会う子ども同士なら「名前」「学年」「楽しみにしていること」などを話すことで、お互いを知る機会になります。

②発声練習

声を出しながら子どもたちの緊張感をだんだんと取り除いてあげましょう。劇中のセリフを発声練習にあてると、劇の世界に少しずつ入りながらセリフも覚えられます。

③人形を動かしてみよう

セリフに合わせて動かす練習をします。

④けこみ（人形劇用舞台）を使った練習

セリフと動きを覚えたら、けこみで練習します。けこみの縁に人形の足元がくるように位置を合わせ、観客に人形の顔が見えるようにできると、より人形劇らしくなります。

⑤本番

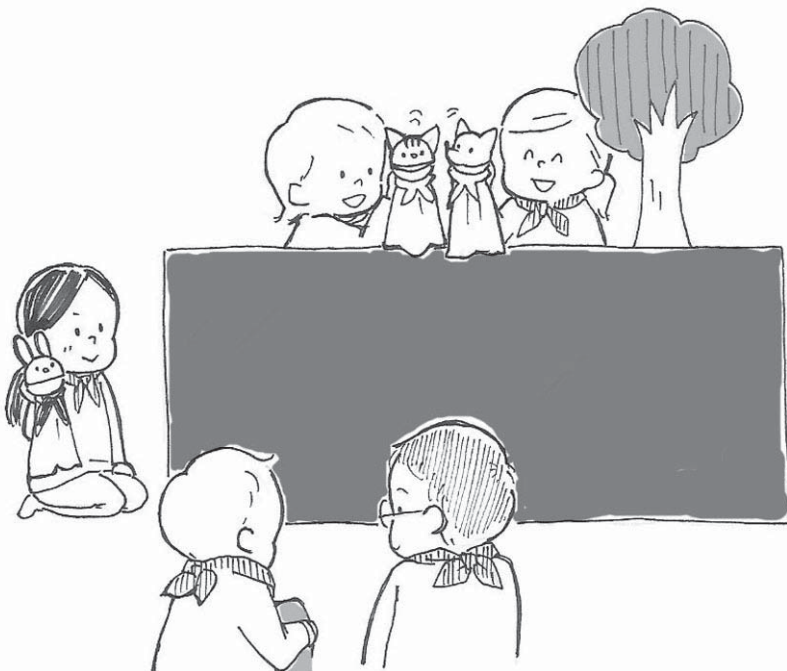
何回か通し練習をしたら、いよいよ本番。子どもたちが思いっきり演じることができるようサポートしましょう。

⑥「ふりかえり」をして解散

上演後に子どもたちから感想を聞いてみましょう。やってみての感想や「やりたい」ことができたかなど、一人ひとりの気持ちを受けとめます。また、喜びや苦労したこと、達成感など仲間と気持ちを共有する大切な時間にもなるので、「ふりかえり」はぜひ行いましょう。



イラスト：いがき けいこ



<運営のポイント>

- ・使用するけこみは、観客に声が届くため、また初めて人形劇をするには操作しやすいため、子どもたちが立ったまま人形の操作ができるような高さ120cm位のものを使用しました。
- ・劇で使う人形は、作る時間がとれない場合は事前に作って用意しておきましょう。
- ・劇団の人数は、1チーム5人～8人程度の人数が良いでしょう。役割分担の決定やお互いの意見交換などコミュニケーションをはかりやすいからです。
- ・子ども同士のコミュニケーションが活発になるように、温かな雰囲気を作り、子どもの言葉を受け止めたり、引き出しましょう。
- ・お話の設定にとらわれずに大きな流れに沿って進行し、その中から出てくる子どもの声と「あそび心」を十分に引き出し、受けとめ、ふくらまして遊びましょう。